ろくおん
通信

２０２２年４月１日発行

発　行　日本ライトハウス情報文化センター
録音製作係
発行責任者　竹下　亘
電　話　06-6441-1017
ＦＡＸ　06-6441-1027
http://www.iccb.jp/

No.250

今号の内容

◎聴いてわかる録音図書をつくるために（第６３回）……１ページ
どこまで“厳密な”校正が必要か
◎もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（第３３回）……２ページ
「製作範囲外」と「製作範囲完了」
◎ご存知ですか　「シネマ・デイジー」……５ページ
◎盲導犬カリムが引退しました ……６ページ

聴いてわかる録音図書をつくるために（第63回）

どこまで“厳密な”校正が必要か

録音製作係　木田陽子

家庭録音ボランティアのかたから「録音中に雑音が入るようになってしまいました」というご相談を受けた場合、原因になっていそうなものを一つ一つチェックしていくことになるのですが、直らない場合は「オーディオキャプチャー用のドライバーを再インストールしてみましょう」と提案することもあります。キャプチャーをパソコンで動かすためのソフトウェアをもう一度入れ直してみましょう、という意味です。

この「ドライバー」は、「ドライバ」と長音符なしで書くこともあります。昔のコンピューターでは画面に表示する文字数を節約する目的もあり、そう書くように決まっていたそうですが、現在のコンピューター業界では長音があってもなくても良い、という風に変わってきたようです。

たとえば椅子の一種で、日本語では「ソファ」と表記する家具があります。これを発音する時には「ソファー」と伸ばすことの方が多いのではないでしょうか（『ＮＨＫ日本発音アクセント新辞典』や『新明解アクセント辞典』には「ソファー」のみが掲載されています）。“椅子の一種である”ということが伝われば良い場合、文字通り厳密に「ソファ」と短く読まなくても、音訳時に自然な読みができていれば、音が多少長くなっていたとしても特に不都合は起きないのではないでしょうか。そうすると、校正で「原本の表記は

『ソファ』ですが、音声は『ソファー』になっていますので読み替えてください」と挙げる必要もなくなります。結果的に音訳者が修正する箇所が減少しますし、修正録音時に別のところを誤読する可能性を減らすことにもつながります。

反対に、今回のこの記事のように表記が問題になっている時には、きちんと読み分ける必要があります。小説などで「猫がソファであくびをしている。」という文章が出てきた時には長くても短くても問題はありませんが、「『キャプチャ』と書いても、『キャプチャー』でも良いですよ。」という文章を音読するときは、区別しなければなりません。この点は感嘆符の扱いに似ているように思います（「ろくおん通信」No. ２１５参照）。

「原本通りに読む」ことが音訳の原則ですが、「原本の表記を一字一句そのまま読む」ことにとらわれすぎていないでしょうか。もちろん、墨字（活字）の文章と音声化した情報とを１００％同じ内容にはすることは難しいのですが、「原本の内容をきちんと音声に変換して伝えることができているか」、「始めから終わりまで通して聞いてみて、原本の内容が全て理解できるか」という視点から、校正作業を行うことが大切なのではないかと思います。

もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（第３３回）

～ボランティアの皆さんから寄せられる質問などを、毎回少しずつ紹介しています～

音訳者から「音訳データを送信する画面のチェックボックス（☑）に印をつけるタイミングがわからない」、「『製作範囲外』と『製作範囲完了』の２つがありますが、違いは何でしたっけ…」というお問い合わせを受けました。今回は音訳データ送信時に使用するチェックボックスの役割についてまとめてみたいと思います。

次ページの画像は、ウェブスタジオの「音訳データ送信」画面です。以下の３つの工程でデータ送信をする際に使用します。

① 音質チェック用の音訳データ
② 未校正の（これから校正に回す）音訳データ
③ 紙の校正表（デイジー校正の「黄色い紙の校正表」、最終チェックの「白い紙の校正表」）の指摘事項を修正した音声データ

（※　②と③の間、「校正（第２校正＝２校）」と「デイジー編集」から届くウェブ

校正票の校正項目を修正したデータは、「修正済音訳データ送信」画面から送信します。）

この画面には、「製作範囲外」と「製作範囲完了」という２か所のチェック欄があります。

音質チェック用のデータ（前述①）を送信する場合と、紙の校正表の指摘事項を修正したデータ（③）を送信する時には、「製作範囲外」にチェックを入れます。この時、すぐ下の「開始ページ」「開始行」「終了ページ」「終了行」の欄には何も入力しません。

「製作範囲外」という用語は「原本の１ページ目から最終ページまでの範囲に含まれない」という意味になります。①のデータは、正式に送信する１枚目のファイルより前に送信するデータだから“範囲外”です。③は、少しイメージがしづらいですが、「ウェブ校正票を使う範囲ではない」、つまり紙の校正表による修正データだから、と考えていただければ良いかと思います。

話は戻りますが、音質チェックで特に問題がなければ、本格的に音訳を開始します。未校正のデータ（②）を１ファイル分読み終わるごとにウェブスタジオでの送信作業をしていき、一番最後に送信する「製作範囲の最終音訳データ」（通常は原本奥付の音声が含まれるもの）の時にだけ、「製作範囲完了」のチェックを入れます。

このチェックを入れておかないと、ウェブスタジオのシステム上、校正（２校）時

の修正録音作業が終わったと判定されません。そのため次のデイジー編集の工程に回った際に、編集者側の画面から音声データをダウンロードできない状態になってしまいます。もし入れ忘れたことに気づいた場合には、係までお知らせください（以前はデータ送信後も音訳者側からもチェックを追加することができたのですが、数年前の改修以降、職員側からしかできなくなっています）。

ここで１つ、「製作範囲外」での送信に関わるトラブルをご紹介いたします。

デイジー編集段階で修正した音訳データを「修正済み音訳データ送信」で送った後、ほかにも修正したい箇所が見つかった場合、皆さんならどうやって編集者にデータを渡しますか。

この時に「製作範囲外」で送信する方もいらっしゃるのですが、複数のデータを「製作範囲外」で送信した後、このデータで最後だからと「製作範囲完了」のチェックも一緒に入れてしまうと、それより前に「製作範囲外」で送信したデータが編集者側からダウンロードできなくなることがあります（下図の時は、職員側の画面からデータを操作し、編集者側の画面からも「ダウンロード」ボタンが押せるようにしました）。

「製作範囲完了」のチェックは未校正（最初の修正録音をする前）の、一番最後に送る音声データにだけ付けます。送信作業時にどうしたらよいか迷った時には、係までご相談ください。

たとえば、こんなことがありました…
（画像は編集者側の画面です）

① ３月３１日に未校正の最終（８枚目）データを送信。その際、最終ページ（６４ページ）を入力し、「製作範囲完了」にチェックを入れた（一覧に「※」が付く）。
② ４月１１日０時０６分に、追加録音したデータを送信しようとしたが、①の送信時に最終ページまで使用してしまっていたため、「製作範囲外」で送信。
③ ４月１１日０時１２分に８枚目の修正済み音訳データを送信した（下図のように「※」が①から③へ移動）。
④ ４月１１日１４時２５分に更に別の追加録音データを送信した
⇒③より後に送信された④のダウンロードボタンが、編集者側の画面から消えている（ダウンロードできない状態）

ご存知ですか　「シネマ・デイジー」

録音製作係の木田です。今回は録音図書と「シネマ・デイジー」の製作工程について、比較しながらみていきたいと思います。

録音図書とシネマ・デイジーは、どちらも「音声デイジー」と呼ばれる種類のデイジー図書（※）です。それぞれ以下のような工程で製作しています。（簡略化して記載していますので、ここに書いていない細かい作業をすることもあります）

（※）デイジー図書には、「音声デイジー」のほかに、文字や画像と音声が連動して再生される「マルチメディアデイジー（MMD）」、テキストデータに記号などを付け加えて合成音声で読み上げる「テキストデイジー（TD）」があります）。

◆録音図書

下読み　（漢字の読みやアクセントの調査、図表の読み原稿作成など）
↓
↓
↓
↓
↓
音訳　（スタジオ録音では、モニターが同時校正［第１校正］）
↓
校正（第２校正）
↓修正録音
デイジー編集　（PRS Pro を使用）
↓修正録音・再編集
デイジー校正
↓修正録音＋枠アナ収録・再編集
最終チェック
↓必要であれば修正録音・再編集
ＣＤコピー
↓
完成

◆シネマ・デイジー

セリフ起こし　（映画の主音声を文字に書き起こす）
↓
（音声解説の）台本制作
↓
台本校正
↓台本修正・下読み
録音　（モニターが同時校正）
↓
編集　（動画編集ソフトを使用して、主音声と解説音声を合わせる）
↓
編集校正
↓修正録音・再編集
枠アナ収録
↓
デイジー編集　（PRS Pro を使用）
↓
ＣＤコピー
↓
完成

通常の録音図書は、１冊につき音訳者・校正者・デイジー編集者・デイジー校正者が１人ずつの合計４人（スタジオ録音の場合はモニターも加わるので５人）で製作しています。

シネマ・デイジーは、１つの作品に対して２～３人が製作担当者となり、音声解説台本（音声ガイド台本）の作成・収録・音源の編集（映画の主音声に、解説音声を適切なタイミング・音量で入れていく）などの主要な作業を行います。途中で台本校正者と編集データの校正者（職員）とが、担当者チームの外から校正作業を通してより良い作品を作るための手助けをしていきます。

盲導犬カリムが引退しました

エンジョイ！グッズサロン　岡本　昇

２月１４日、盲導犬のカリムは約９年間のお仕事を終え、引退しました。これからは、パピーウオーカーさんのお宅で、のんびり過ごします。

今までカリムにやさしく接してくださり、たくさん可愛がっていただいて、本当にありがとうございました。

カリムと初めて会ったのは、２０１３年４月１５日で共同訓練の初日、千早赤阪村の盲導犬訓練所でした。訓練士と共に居室へやってきたカリムは、尻尾を振ってくれたものの、訓練士がいなくなると不安になって、私から離れようとして、ピーピー鳴き出しました。声をかけたり撫でたりして、どうにか落ち着かせて、訓練が始まりました。信頼関係のない状態ですから、上手く歩けなくて苦労したのを覚えています。カリムも苦労したことでしょう。

そんな状態でしたが、お互いに信頼して、仲良くなるまで長くはかかりませんでした。歩行誘導では、混雑する中、人を避けながら歩くのを、ゲームのように愉しんでくれるようになりました。良い歩きをして褒めると、もっと褒めてもらおうと次々に障害物を避け、段差を教えてくれます。ベテランの時期になると、大阪梅田の地下街を、ラッシュで混み合う中、機敏な動きですばらしい誘導をして、周囲の人を驚かせるほどになりました。

家の中ではハーネスもリードも外していましたが、私の後をついて回って、いつも一緒です。私が病気で休職したときも、ベッドで休んでいると、気がついたら傍らで座って、心配そうにこちらを見てくれていたようです。

約９年の間、全く病気になることもなく、健康でいてくれました。１０歳を過ぎても、庭を全力で駆け回るくらい元気なカリム。私にとって掛け替えのないパートナー。本当にありがとう。お疲れさま。また会おう！

〈ニューフェイスのご紹介〉

３月８日から、新しいパートナーとの出勤が始まりました。名前はフィンです。
黒い毛のミックス犬です。おっとりした性格の男の子です。
これからよろしくお願いいたします。

館からのお知らせ

★　製作用ソフトウェア等の Windows 11 への対応状況

録音・校正作業に使用している「Recdia（レクディア）」と、デイジー編集作業に使用している「Plextalk Recording Software Pro（プレクストーク　レコーディング　ソフトウェア　プロ：PRS Pro）が、Windows 11 で使用できることが確認されたとの情報が、各社のホームページに掲載されています。

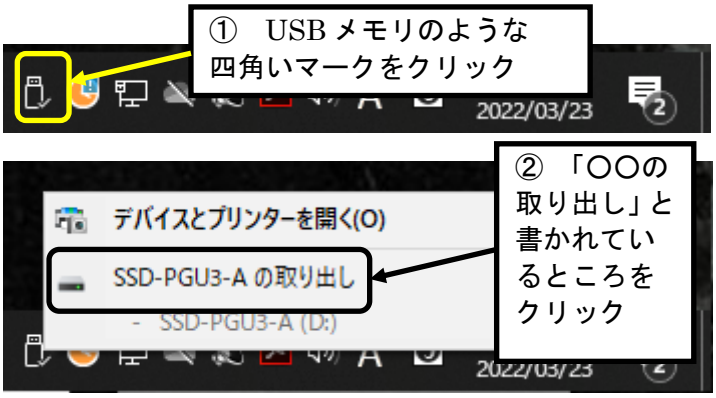
「サン・データセンター」の「Recdia Net」ホームページ
https://www.recdia.y-net.co.jp/
「シナノケンシ」の「Plextalk」ホームページ
http://www.plextalk.com/jp/

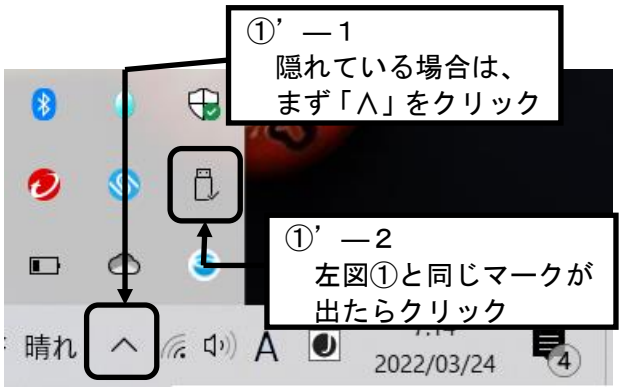
ただし、オーディオキャプチャーが Windows 11 未対応ということもありますので、キャプチャーのメーカーのホームページをご覧いただき、お使いのキャプチャーが対応しているかどうかをご確認ください。

★　USB メモリ・外付け HDD 使用中は、パソコンにしっかりと接続を

USB メモリや外付けハードディスク（HDD）などを使用する際は、パソコンに差し込んだ接続部やケーブルが緩んでいないかを確認してください。データを画面に表示するため読み込んでいる途中、あるいはデータを保存している最中にパソコンから機器が外れてしまうと、データが壊れて読めなくなってしまう可能性があります。最悪の場合、それまでの作業を一からやり直さなければならなくなることもありますのでご注意ください。

また、パソコンから取り外すときも、データの読み書きが終わっているかどうかを確認してから取り外すようにしましょう。「ハードウェアの安全な取り外し」の作業（下図参照）を行ってから外す習慣をつけてください。





★　休室のお知らせ

	月	火	水	木	金	土	日
２・４週 活動日	４/２５ 休室	２６	２７	２８ ※PM 休	２９ 休室	３０	５/　１ 休室
１・３週 活動日	２ 休室	３ 休室	４ 休室	５ 休室	６	７	８ 休室

※　**４月２８日（木）**は６階・７階ともに、

午前：通常通り、来館での活動が可能です。

また「二十四の瞳」例会はオンライン・来館併用で行います。ご来館のかたは４階会議室にお集まりください。

午後：ボランティア交流会開催（１３時～１５時３０分）のため、**休室いたします。**

交流会の詳細は「One Book One Life」４月号をご覧ください。